

## 平成 23 年度の資金運用方針、運用管理体制について

本学は、これまでの資金運用の総括を行い、平成 22 年 7 月 10 日に「関西大学の資金運用の現状と今後の方針について」を学内外に公開いたしました。そして、今後の課題として、新たな資金運用方針（ポートフォリオの作成含む）及び資金運用体制の再構築を掲げておりました。

このたび、平成 23 年 4 月から資金運用を再開するに当たり、「平成 23 年度の資金運用方針、運用管理体制について」を策定いたしました。主たる内容は、①今後は分散投資を主体にポートフォリオを構築していくこと、②リスク・リターン管理が十分機能する運用管理体制を構築すること、の 2 点であります。

この「平成 23 年度の資金運用方針、運用管理体制について」に従って、慎重に一步ずつ着実に資金運用に取り組んでまいります。次に概要を掲載いたしますので、ご理解と今後とも一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

### 1 資金運用の目的

本学の給付奨学金など、様々な基金事業による事業費は、資金運用収入をもって賄うことを目指す。

### 2 資金運用の基本方針

- (1) 有価証券運用限度額は、一定の流動性資金を確保した後の範囲内とする。
- (2) ミドルリスク・ミドルリターンを運用指標とし、分散投資（国内債券・外国債券・国内株式・外国株式）を行う。
- (3) 運用目標は、長期国債（10 年）利回り+1.0%とする。
- (4) 「コア・サテライト」戦略による運用に取り組む。
- (5) リスク・リターン管理のできる運用管理体制を構築し運営を行う。

### 3 リスク管理について

リスク・リターンを十分考慮し、早急に有価証券毎のリスク管理ルールを具体的に策定する。

### 4 平成 23 年度の資金運用方針、運用管理体制の骨子

- (1) 基本ポートフォリオは次のとおりとする。

資産区分	流動資産	国内債券	外国債券	国内株式	外国株式	その他(仕組債)	合計
資産配分	57%	17%	6%	1%	0%	19%	100%
乖離幅	—	±2%			—	—	

- (2) 運用対象を拡大し、外国債券、国内株式の運用を行う。
- (3) 仕組債は発行体の信用リスク状況を注視しつつ、引き続き保有する。
- (4) 当年度の運用目標は 2.0%とする。
- (5) 債券投資に関しては、本学の中長期計画に応じ運用期間の組み合わせを考慮する。
- (6) 資金運用委員会の下部組織として、運用計画を策定する資金運用小委員会、運用状況をモニタリングする資金管理小委員会を設置し、PDCAサイクルが着実に回る運用管理体制を構築し、運営を軌道に乗せる。